

保全・補修事業を強化

道路橋に 照準 14年度売上高50億円へ

東京鉄骨橋梁(東京都港区、岡崎雅好社長)は、既存橋梁の保全・補修事業を強化、08年度に3億円だった同事業の売上高を14年度に50億円まで増大させる方針だ。国内の新設鋼橋出荷量が低迷する一方、保全・補修需要は

東京鉄骨橋梁

今後急速に拡大する見通し。このため同社は、保全・補修の専門技術者を集めた「リニューアル営業部」を10月に新設。特に道路橋分野に注力し、これまで鉄道橋と道路橋で半々だった保全・補修事業の売上高の約9割を道路橋で確保する考えだ。

高度経済成長期に架設された多くの橋梁で老朽化が進行。国土交通省によると、建設から50年以上が経過する長さ15以上の橋梁は、26年度に6・8万橋以上に達する見込みとなっている。

同社は、こうした既存橋梁の保全・補修ニーズに積極的に対応。とりわけ、橋梁の点検、保全・

補修計画の策定、施工、定期点検といった保全・補修に必要の一連のノウハウを顧客に提供する。

RI(リブリ)を構築しており、自治体や高速道路会社に同システムの活用を提案していく考え。

同社は、計画立案から点検、補修工事、維持管理までの一貫したメンテナンスシステム「Re-B

福島剛橋梁事業本部営業企画部長は「鉄道橋で培った短工期施工技術などを道路橋分野で生かすことで、売り上げを高めたい」としており、今後積極的に保全・補修事業の拡大に取り組む方針だ。

リニューアル営業部は、保全・補修専門の設計、計画、施工の各技術者を一つの部署に集約。5000橋を超える保全・補修工事の実績を生かし、橋梁の点検、保全・